

令和8年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

－ 調査結果 と 指導改善のポイント －

中学校数学科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と生徒のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
- 5 同一生徒の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和8年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

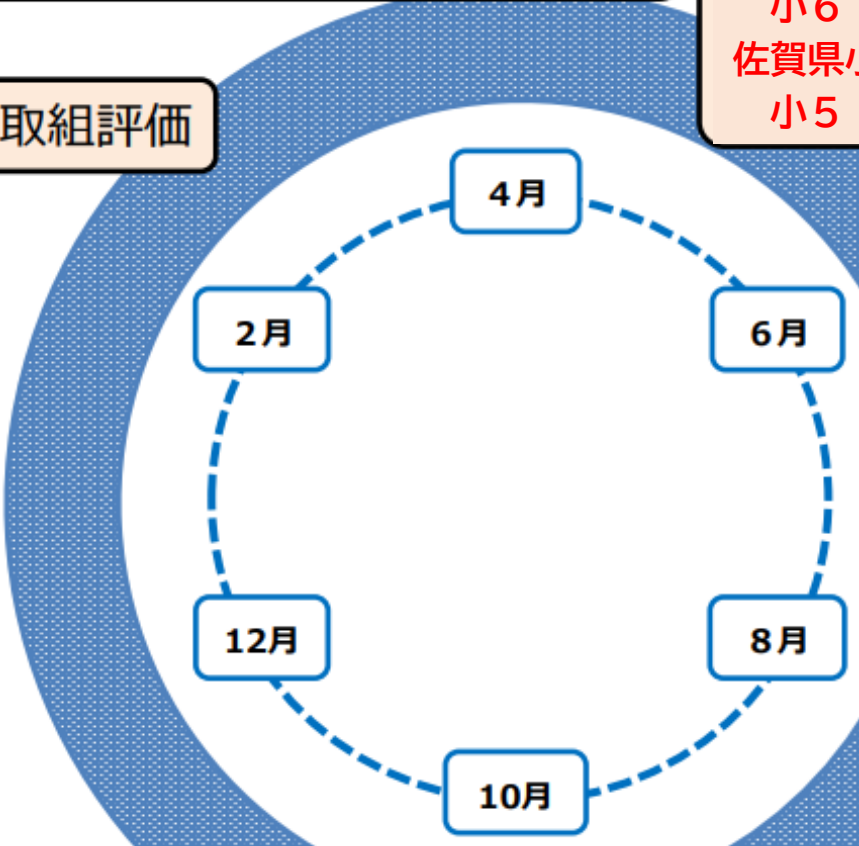
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和8年4月23日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



・問題分析

・結果分析

・取組の検討

○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

中2 数学

年度	県平均正答率	目標値
R 8	55.9 %	57.2 %
R 7	52.5 %	56.7 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－1.3

－4.2

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R8の県平均正答率は、目標値を1.3ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

知識・技能

中2 数学

年度	県平均正答率	目標値
R 8	58.5 %	59.3 %
R 7	56.0 %	59.3 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－0.8

－3.3

R8の県平均正答率は、目標値を0.8ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

思考・判断・表現

中2 数学

年度	県平均正答率	目標値
R 8	48.5 %	51.3 %
R 7	45.5 %	51.5 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－2.8

－6.0

R8の県平均正答率は、目標値を2.8ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

中2 数学

領域	年度	県平均正答率	目標値
A 数と式	R8	66.0 %	65.5 %
	R7	59.4 %	62.0 %
B 図形	R8	56.4 %	57.8 %
	R7	53.4 %	60.0 %
C 関数	R8	46.5 %	48.3 %
	R7	47.4 %	50.0 %
D データの活用	R8	45.7 %	50.0 %
	R7	44.4 %	50.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

+0.5

-2.6

-1.4

-6.6

-1.8

-2.6

-4.3

-5.6

R8の県平均正答率は、「数と式」は目標値を上回った。
また、R7と比べると、すべての領域で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

中3 数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	54 %	57.0 %
R 7	44 %	48.3 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－3.0

－4.3

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を下回った。
しかし、R7と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

中3 数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	59.9 %	63.0 %
R 7	51.0 %	54.4 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－3.1

－3.4

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を3.1ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

中3 数学

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	34.8 %	39.1 %
R 7	34.1 %	39.1 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-4.3

-5.0

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を4.3ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》
中3 数学

領域	年度	県平均正答率	全国平均正答率
A 数と式	R8	67.0 %	67.8 %
	R7	37.7 %	43.5 %
B 図形	R8	41.6 %	48.7 %
	R7	41.8 %	46.5 %
C 関数	R8	51.1 %	54.8 %
	R7	45.8 %	48.2 %
D データの活用	R8	50.9 %	53.5 %
	R7	56.7 %	58.6 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－0.8

－5.8

－7.1

－4.7

－3.7

－2.4

－2.6

－1.9

R8の県平均正答率は、すべての領域で全国平均正答率を下回った。
しかし、R7と比べると、「数と式」で改善が見られた。

第2学年では、令和7年度の県調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」 「思考・判断・表現」
- 領域別の県平均正答率 「数と式」 「図形」 「関数」 「データの活用」

第3学年では、令和7年度の全国調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」 「思考・判断・表現」
- 領域別の県平均正答率 「数と式」

3 成果が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率を上回った設問や、令和7年度からの伸びが大きい設問を取り上げています。

- ◇一次式の減法ができる。（中2）
- ◇一次方程式を解くことができる。（中2）
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる。（中3）

4 課題が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率との差が最も大きかった設問や、これまで県の課題とされ、令和8年度も指導改善が必要と考えられる設問を取り上げています。

- ◆回転移動させてできる図形の移動の方法を説明することができる。（中2）
- ◆範囲について理解している。（中2）
- ◆2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。（中3）
- ◆筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。（中3）

指導改善のポイント

移動によって重なる二つの図形の性質や関係を考察し、説明することができるようにするために、

- 図形の移動では、紙や模型などを実際に操作したり、1人1台端末を活用して移動の様子を観察したりする場面を設定する。
- 図形の移動の方法について、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動を設定する。

指導改善のポイント

範囲について理解することができるようにするために、

- 日常生活における「範囲」とデータの分析で使われる「範囲」の違いが分かるように指導する。また、第2学年「データの分布」においても、継続的に指導する。
- データの傾向を読み取り、判断の理由について数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を設定する。

指導改善のポイント

図形の性質について理解したり、筋道立てて説明したりすることができるようにするために、

- 仮定や結論に着目し、条件をかえたり、逆を考えたりするような課題を設定する。
- 数学的な推論（帰納、類推、演繹）の役割を理解し、必要に応じて推論の過程を簡潔・明瞭に表現する課題を設定する。

5 同一生徒の経年比較

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 算数 (理科)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

5 同一生徒の経年比較

〈 R 8 全国調査結果と R 7 県調査結果との比較 〉

領域	R 8 全国調査 対全国比※1	R 7 県調査 対全国比※2	R 8 - R 7
A 数と式	0.99	0.99	0
B 図形	0.85	0.96	-0.11
C 関数	0.93	1.00	-0.07
D データの活用	0.95	0.94	+0.01

※1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、「データの活用」で改善が見られた。

6 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

生徒の説明の意図を理解し、教師が問い返しを行うことで、生徒に再思考を促し、数学的表現を適切に用いて説明することができるようにしましょう。

【問い返しの例】

＜回転移動＞

- ・ 図形を回転移動させているみたいだけど、どこを中心に回転移動しているのかな？

＜範囲＞

- ・ 「範囲」という用語は、正しく用いることができていたかな？

＜図形＞

- ・ 条件をかえると、どうなるのかな？
- ・ 逆でもいえるのかな？

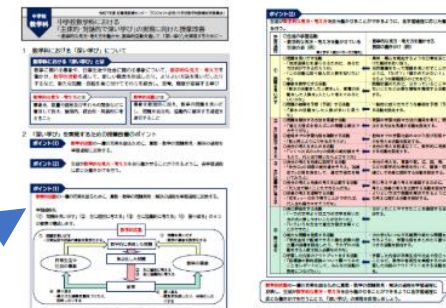
授業に役立つ実践研究



プロジェクト研究

プロジェクト研究			
	校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 【今年度の研究について】
	小学校	各教科	【小学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ 
			【小学校算数科】 授業改善に役立つコンテンツ 
	中学校	各教科	【中学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ 
			【中学校数学科】 授業改善に役立つコンテンツ 
			【中学校英語科】 授業改善に役立つコンテンツ 
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
	小学校	各教科	児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり ～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～ 
	中学校		児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり ～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～  理科、音楽科、美術科

○中学校数学科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善—数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、「深い学び」を実現するために—

中学校
数学科

令和7年度 佐賀県教育センター プロジェクト研究(中学校数学科教育研究委員会)

中学校数学科における
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
～数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、「深い学び」を実現するために～

1 数学科における「深い学び」について

数学科における「深い学び」とは

数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、**数学的な見方・考え方を働かせ**、**数学的活動**を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容する学び

数学的な見方・考え方とは

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

数学的活動とは

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください



各種研修



受講のための情報



受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ



授業に役立つ実践研究



学習評価の進め方

SAGAせ～る指導案

学習状況調査

「さがんば」(佐賀県学習問題)



これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査を基に作成されたC B T問題です。
児童生徒が、学習eポータルにサインインして、MEXCBT(メクビット)を使い
上で学習することができます。

Ⅰ 教師用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

Ⅱ 児童生徒用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

Ⅲ 問題一覧 ※令和6年3月15日更新

小学校
国語小学校
社会小学校
算数小学校
理科中学校
国語中学校
社会中学校
数学中学校
理科中学校
英語

令和5、6年度作成

「さがんば」（佐賀県学習問題）問題一覧 (佐賀県小・中学校学習状況調査を基にしたC B T問題)

中学校数学

※ 令和4年度以前に作成した佐賀県小・中学校学習状況調査の問題を基に作成しています。
 ※ 学習指導要領の内容に示されている内容は、令和元年度以前の問題を参考にしています。
 ※ 平成20年に告示された学習指導要領の内容となります。
 ※ 評価の観点にある知技は「知識・技能」、思考力は「思考・判断・表現」を表しています。

さがんば No.	タイトル名 ※タイトルをクリックすると、 問題プレビューが開きます。	校種 学年	単元/領域	出題の趣旨	学習指導要領の 内容	評価の 観点	問題形式	選択式 短答式 記述式	チェック
01	「さがんば」(佐賀県学習問題) 数学 中1 正の数・負の数01	中1	正の数・負の数	正の数と負の数の四則計算を することができる 指数の計算の仕方を理解している 二つの負の数の四則計算の結果 について理解している 自然数を素数の積で表すことが できる	数と式(1)ア(イ) 数と式(1)ア(イ) 数と式(1)ア(ア) 数と式(1)ア(ア)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		
02	「さがんば」(佐賀県学習問題) 数学 中1 正の数・負の数02	中1	正の数・負の数	正の数と負の数の四則計算が できる 素因数分解の意味を理解している	数と式(1)ア(イ) 数と式(1)ア(ア)	○ ○	○ ○		
03	「さがんば」(佐賀県学習問題) 数学 中1 正の数・負の数03	中1	正の数・負の数	絶対値の意味を理解している 距離を今までの正の数と負の数の計	数と式(1)ア(ア)	○		○	

MEXCBT

「さがんば」(佐賀県学習問題) 数学 中2 連立方程式の活用04 問題: 1/1

太郎さんと花子さんは、数学の時間に次の問題を解いています。

問題

ある市では、清掃活動に参加したボランティアの人数を調べています。今日のボランティアの人数は250名で、昨日と比べると、大人のボランティアの人数は20%減り、子どものボランティアの人数は40%増え、全体では50名増えていました。昨日の大人と子どものボランティアの人数を求めなさい。

太郎さんは、問題を見て、昨日の大人のボランティアの人数を x 人、昨日の子どものボランティアの人数を y 人とし、数量の関係を表1のように整理して、連立方程式をつくりました。

表1

	大人(人)	子ども(人)	合計(人)
昨日	x	y	200
今日	$\frac{80}{100}x$	$\frac{140}{100}y$	250

花子さんがつくった連立方程式

$$\begin{cases} x + y = 200 \\ \frac{80}{100}x + \frac{140}{100}y = 250 \end{cases}$$

花子さんがつくった連立方程式の空欄に当てはまるものを、次の中から1つ選びなさい。

○ $\frac{80}{100}x - \frac{140}{100}y = 50$
○ $-\frac{80}{100}x + \frac{140}{100}y = 50$
○ $\frac{120}{100}x + \frac{60}{100}y = 50$
○ $-\frac{20}{100}x + \frac{40}{100}y = 50$
○ $\frac{80}{100}x + \frac{140}{100}y = 50$

これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査問題を基に作成されたC B T問題です。

学習eポータルにサインインして、MEXCBT(メクビット)を使い、オンライン上で学習することができます。